

目的 皮膚の血流量は体熱の放散調節をはじめ皮膚機能と深いかかわりがあるので、着衣やガードル着装によってその血流量がどのように変化するかを調べた。

方法 健康な本学学生四名を被験者として、先ず、無着衣時、ついで、着衣時とガードル着装時の皮膚血流量をレーザドップラー血流計で測定した。測定部位は前額部、腹部、前腕部、手部、大腿部、下腿部、足部で、ガードル着装時には、ガードルで緊縛されている腹部最突点、体側最突点、臀部最突点で測定した。これらの測定は低温、中等温、高温の三段階の環境温度を設定して人工気候室で行った。

結果 無着衣時の皮膚血流量を身体部位別にみると前額部は、他の部位に較べると著しく大きく、また、振幅も大きかったが、足部、下腿部などの下肢末端部は小であった。着衣時には、このような血流の分布状態は変わらなかったが、何れの部位の血流量も増大した。低温環境時にも、このこのような傾向が認められるが、その値は小であった。ガードルを着装すると、被覆部位の血流量は、何れの部位も減少し、緊縛度が強くなるほど、その程度が大であった。